

第23回 天文文化研究会

The 23rd Workshop on Cultural Studies of Astronomy



2022年6月19日（日）10時スタート，17時00分頃終了

@大阪工業大学梅田キャンパス または オンライン参加形式

(2022-0614版)

本研究会のページ

<http://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/20220619/index.html>

会場参加の方へ

- ★ 会場は，大阪工業大学梅田キャンパス（大阪市北区茶屋町1番45号，6ページに地図あり）です。12階セミナー室1です。
<http://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>
- ★ 氏名を1階エレベータ前の守衛室に届けてありますので，「天文文化研究会参加」としてカードキーを受け取ってお進みください。守衛室前で検温も必要です。
- ★ 1階には，コンビニエンスストアもあります。
- ★ 昼食は，21階にレストランもありますが，ご持参されることをお勧めします。
- ★ 夕方の情報交換会にご参加の方は，お弁当代 3500円を現金でご用意ください。

オンライン参加の方へ

Zoomを用いて双方向の通信をします。アクセス先はメールにてご案内したものを打ち込んでください。

Slack

- ★ 資料の共有などではSlackを 사용합니다。ウェブブラウザ（Safari, Google Chrome, MS Edge, Firefoxなど）上で無料で使えますが，PC用のアプリケーション Zoom, Slack をインストールした方が，使い勝手がよいです。
- ★ Slackのアクセス先は，前回の研究会と同じです。招待状をメールで送信しておりますので，そこからアクセスしてください。slackの中の『#第23回研究会20220619』というchannelを主に用います。それ以外のところもご覧いただいたり，書き込んでいただいても結構です。
- ★ Zoom と Slack の画面説明は，5ページにあります。

第23回天文文化研究会プログラム 2022年6月19日(日)

会場 大阪工業大学梅田キャンパス 12階セミナー室1

9:55 松浦清 ご挨拶

「天文文化学序説--分野横断的にみる歴史と科学」(思文閣, 2021) 出版のご報告

Focus Session「江戸から明治にかけての文献から探る天文文化」

10:00 【60分講演】 嘉数次人 (大阪市立科学館) Tsuguto Kazu (Osaka City Museum)

江戸幕府の紅葉山文庫と幕府天文方 (オンライン)

概要: 江戸幕府には、将軍の御文庫(紅葉山文庫)が設置され、貴重書などが収蔵されていた。蔵書の中には天文書も含まれていたことは、現存する蔵書目録『重訂御書籍目録』などから知られている。これら御文庫の蔵書は秘蔵されている印象もあるが、実際は幕府の業務にも利用されており、天文方も御用に際して蔵書を借用している。今回は、蔵書目録や書物奉行の執務日誌である「書物方日記」などを通じて、紅葉山文庫にはどのような天文書があったのか、また天文方はどのように利用していたのかを紹介する。

11:00 【60分講演】 米田達郎 (大阪工業大学) Tatsuro Yoneda (Osaka Institute of Technology)

自転の語史 (オンライン)

概要: 福沢諭吉は『訓蒙窮理図解』(1868)において、地球の自転のことを「世界は十二時の間に一廻して昼夜の分を起すといへり。されば所謂地球の私轉なるものにて」のように「私轉」を使用する。「自転」の初出は『日本国語大辞典第二版』によれば『遠西観象図説』(1823年)である。そうすると「自転」が定着する過程の中に「私轉」があり、両語がせめぎ合った結果「自転」になったと予想される。本発表では、「自転」が定着するまでの過程を考察することによって、理科学用語の発展する様相の一つを明らかにしたい。

12:00 【15分講演】 玉澤春史 (京都大学/京都市立芸術大学)

Harufumi Tamazawa (Kyoto Univ./Kyoto City Univ. of Arts)

NDL Ngram Viewerを用いた天文文化研究の可能性 (会場)

概要: 2022年5月に公開されたNDL Ngram Viewerは国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている図書資料約28万点のOCRテキストデータを利用したものであり、近世・近代における日本語資料研究を質的に変化させる可能性が高い。例えば天文分野以外の書籍における天文の記述に対する検索も使用可能であり、今回はテストケースとして明治期の天文用語資料の他分野における利用状況を紹介します。

**** 昼休み Lunch Break ****

13:00 【60分講演】 岩橋清美 (國學院大学) Kiyomi Iwahashi (Kokugakuin Univ.)

& 北井礼三郎 (立命館大学) Reizaburou Kitai (Ritsumeikan Univ.)

「ドナティ彗星観測記録を用いた観測技術の比較研究」(会場)

概要: 本報告は、1858(安政5)年のドナティ彗星を中心に、19世紀前半の日本における彗星観測技術の比較検討を試みるものである。当該期の彗星観測技術に関する研究には、間重富・重新・重遠およびその門人たちに関するものが多く、1861(文久元)年テバット彗星などについては土御門家の観測に関する研究もある。こうした個々の事例の積み重ねが観測技術の実態を捉える上で基礎になることは言うまでもないが、近世後期の天文観測技術のあり方をトータルに捉える視点も必要であろう。そこで本報告では江戸幕府天文方・土御門家・間家の観測記録が残っているドナティ彗星を事例に三者の観測技術を試みる。また、古文書利用した科学研究においては、分析対象である古文書の史料学的な考察も研究の基盤として重要であるので、この点についても言及する。

14:00 真貝寿明 (大阪工業大学) Hisaaki Shinkai (Osaka Inst. of Tech.)

Focus Session に関するオープンディスカッション (会場)

Standard Session

14:30 【30分講演】竹迫忍（日本数学史学会） Shinobu Takesako

方位による下ツ道の建設年代の推定（オンライン）

概要：従来大和の3古道(下ツ道、中ツ道、上ツ道)はその形態から、同時期に建設されたと推定されてきた。しかし、前回の「北極星による古代の方位測量法」により、最初に中ツ道が、舒明朝において建設されたことを明らかにした。今回は、最近の藤原京内での下ツ道の発掘成果による方位の違いをもとに、同時期に建設されたと考えられていた下ツ道も、3区画3時期に分けて建設されていたことを明らかにするとともに、それぞれの区画の建設年代を推定する。また、これは推古朝の難波からの大道の経路の推定にも影響する。

休憩 集合写真 via Zoom Coffee Break

15:30 【30分講演】松浦清（大阪工業大学） Kiyoshi Matsuura (Osaka Institute of Technology)

日食を描く原在明筆〈天保九如図〉について（会場）

概要：原在明（1778--1844）は江戸時代後期の画家で、父在中が創始した細緻な装飾性を加味した写生的な画風を踏襲し、禁裏や貴族社会の需要に応じて手腕を発揮した。彼の作品〈天保九如図〉は中国古典の『詩経』に基づき、天保（天子の位）を「……の如く」という九つの自然の情景に譬えて、天子の長寿と天下の平和を寿ぐ著名な画題であるが、一般的な作例と異なり、日食とみられる描写を伴う。本図の極めて特異な表現の意図を検討する。

16:00 井村 誠（大阪工業大学） Makoto Imura (Osaka Institute of Technology)

南方マンダラと事の学について（録画）

概要：「南方マンダラ」は、南方熊楠（1867-1941）が高野山官長の土宜法龍（1854-1923）に宛てた書簡の中に記したもので、熊楠の世界観ないし宇宙観を示すものと考えられている。この「南方マンダラ」がいったいどういうものなのか、同書簡で熊楠が言う「事の学」との関連や、いくつかの先行研究などを交えながら、試論的に考察してみたいと思う。

16:15 横山恵理（大阪工業大学） Eri Yokoyama (Osaka Institute of Technology)

『花鳥余情』における「彦星の光」注をめぐって（会場）

概要：『花鳥余情』（一条兼良による『源氏物語』注釈書・室町時代成立）は、『源氏物語』宇治十帖にみえる「彦星の光」について、『万葉集』・『伊勢物語』の古歌を挙げる（総角巻）、彦星の光に喩えられた男性についての解釈を示す（東屋巻）などして、注釈を施している。これらの注釈は、『花鳥余情』以後に引き継がれることはなく、『源氏物語』注釈書の中でも特異なものとなっている。本発表では、「彦星の光」への注釈内容をてがかりとして、『花鳥余情』が宇治十帖（特に、浮舟をめぐる物語）をいかにとらえたかについて考察する。

16:30 作花一志（京都情報大学院大学）

Kazushi Sakka (Kyoto College of Grad. Studies for Informatics)

平安末期の天変地異（オンライン）

概要：保元の乱の首謀者藤原頼長の天文記録、菅原道真・木曾義仲が被った日食、鴨長明が天変・戦乱よりも優先した事件などを紹介する。

16:45 大西浩次（長野高専） Koji Ohnishi (National Inst. of Tech., Nagano College)

「諏訪天文同好会設立100周年記念シンポジウム」案のご紹介（オンライン）

17:00 終了

参加登録者の方々（敬称略，五十音順）6月15日現在

**** 会場参加 ****

(D情報交換会も参加)

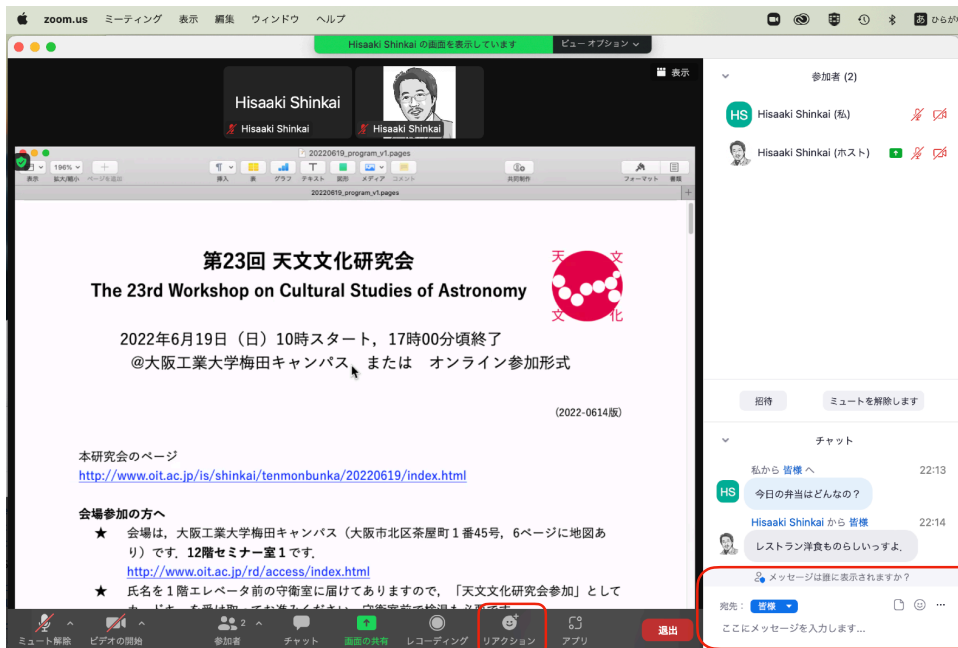
岩橋 清美 D
神羽 麻紀
北井 礼三郎 D
真貝 寿明 D
玉澤 春史 D
鳥居 隆 D
白雲飛 D
藤原 康德 D
松浦 清 D
横山 恵理 D
吉田 薫

**** オンライン参加 ****

相田 幸栄
青木 成一郎
井上 清仁
井村 誠
薄 謙一
梅田 千尋
大西 浩次
乙井 遼平
嘉数 次人
君山 寿美恵
甲田 昌樹
小島 敦
小林 道生
小早川 直樹
今野 利秋
作花 一志
清水 健
清水 エミ
高橋 あやの
竹迫 忍
田島 由起子
田中 良明
田中 慎悟
田村たかゆき

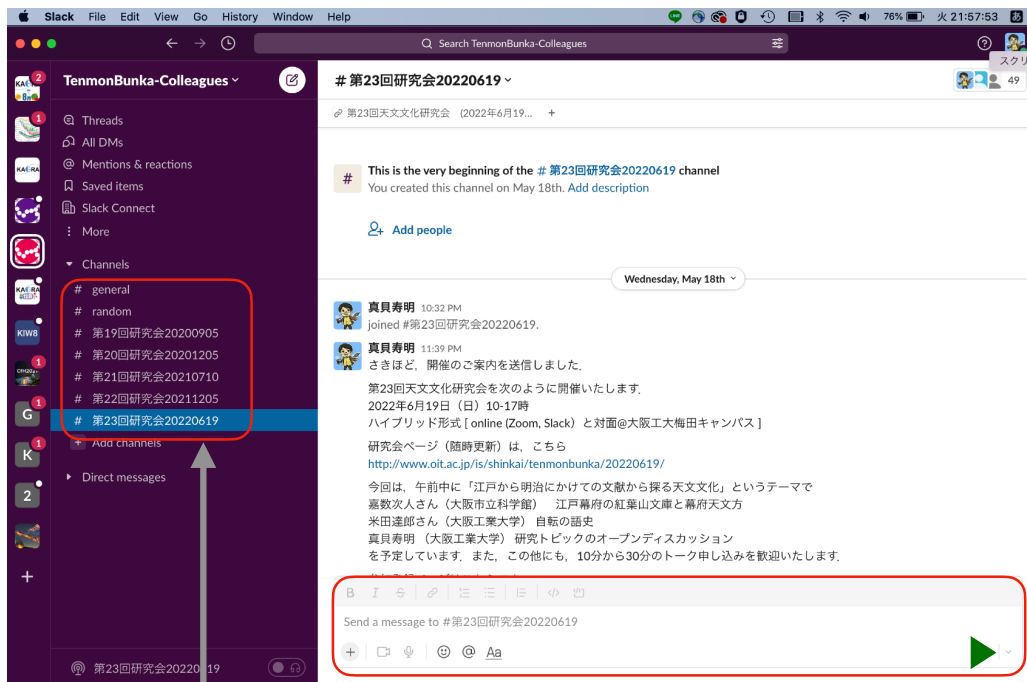
千本 英史
塚本 達也
内藤 誠一郎
永原 順子
西村 昌能
西尾 元伸
西本 雅哉
濱田 悦生
林 左絵子
板東 義隆
福富 和沙
福江 慧
藤原 雅二
古屋 昌美
星見 まどか
松尾 厚
松岡 義一
森 融
山下 浩平
吉田 春夫
米田 達郎

Zoomの画面 (Macintoshの場合)



- (1)マイクのon/off
- (2)自分のカメラのon/off
- (3)参加者一覧を
右に表示
- (4)チャット欄を
右に表示
- 自分の画面を
共有する
- (5)手を挙げるマークを出したり、
拍手ボタンを押したりする。
- (6)チャットを書き込む

Slack の画面 (Macintoshの場合)



チャンネルといいます。
general/random/…
第23回研究会20220619 へどうぞ

ここにコメントを書いて、緑の三角ボタンを押すと
投稿されます。あとから修正もできます。

大阪工業大学 梅田キャンパス (OIT梅田タワー) へのアクセス

<http://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html>



所在地：大阪市北区茶屋町1番45号

- JR「大阪」駅から徒歩5分
- 阪急「大阪梅田」駅から徒歩3分
- 阪神「大阪梅田」駅から徒歩7分
- 御堂筋線「梅田」駅から徒歩5分
- 谷町線「東梅田」駅から徒歩5分

【地下街からのアクセス（地下街直結）】

ホワイトティウメダプチシャンモールをプチ北広場まで進み、ヤンマー本社ビルH-2方向に曲がり地下道を突き当たりまで進む。（JR、地下鉄、各私鉄のすべての駅から雨の日も快適にアクセスできます。）

★入構時は、守衛室にて「天文文化研究会参加」としてご氏名をいただければ、入構に必要なカード・キーが渡されるようにしておきます。体温計測があります。

★会場は12階セミナー室1 です。

謝辞

本研究会は、科学研究助成費・挑戦的研究(萌芽)19K21621『天文文化学の創設：天文と文化遺産を結ぶ文理融合研究の加速』の助成を受けて開催しております。

ご案内

これまでの研究会の記録は

<http://www.oit.ac.jp/is/shinkai/tenmonbunka/workshop.html>

にてご覧いただけます。

ご案内

情報交換用にメーリングリストを作っております。

tenmon-bunka_AT_googlegroups.com

会員間の情報共有、本研究会のご案内などに利用しております。登録ご希望の方は、

真貝(hisaaki.shinkai_AT_oit.ac.jp)または横山(eri.yokoyama_AT_oit.ac.jp)までお知らせください。

ご案内

松浦清・真貝寿明 編『天文文化学序説—分野横断的にみる歴史と科学』

(思文閣出版, 2021年12月20日刊行, 定価 10,450円(税込), ISBN 978-4-7842-2020-5

<https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/9784784220205/>

絶賛発売中。研究会参加者は、思文閣さんへの直接購入で20%引き!!

ご案内

次回の研究会は、2022年12月 を予定しています。